

## 資料 2

# 発達障がい者支援施策の 実施状況等について

(令和3年度12月末)

# — 目 次 —

## 1. 早期発見から早期発達支援へ

### ①乳幼児健康診査等の充実

健診従事者への研修の実施	P. 17
乳幼児発達相談体制の強化	P. 18
4・5歳児発達障がい相談	P. 18

### ②発達支援の充実

発達障がい児専門療育	P. 1
発達障がい基礎講座(親支援講座)	P. 2
ソーシャルスキル講座(親支援講座)	P. 2
ペアレント・トレーニング(親支援講座)	P. 2
啓発DVDの配布	P. 3
その他の取組み	P. 3

### ③教育・保育の充実(幼稚園・保育所・認定こども園等)

幼稚園教諭・保育士等に対する研修の実施 (市立幼稚園教諭)	P. 19
(私立幼稚園教諭、保育士)	P. 22
発達障がい児等特別支援教育相談事業	P. 25
民間保育園等発達障がい児等相談事業	P. 25
特別支援保育巡回指導講師派遣事業	P. 31
保育所等における発達支援プログラムの活用	P. 31

## 2. 学齢期の支援の充実

### ①特別支援教育の充実

巡回指導体制の強化	P. 26
特別支援教育サポーター	P. 27
発達障がい研修支援事業	P. 20
啓発資料の配布	P. 21

### ②発達支援の充実

(1. ②、5 参照)	P. 4
その他の取組み	P. 4

### ③自立支援の充実

児童養護施設等での発達障がい児自立支援事業	P. 29
キャリア教育支援	P. 28
その他の取組み	P. 4

<b>3. 成人期支援の充実</b>	
①自立支援の充実	
発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による発達支援	P. 5
②就労支援の充実	
発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による就労支援	P. 6
発達障がい者就業支援コーディネーターの配置	P. 32
その他の取組み	P. 33
<b>4. 家族に対する支援の充実</b>	
ペアレント・トレーニング等の親支援講座の実施	P. 7
ペアレント・メンター(ピア・カウンセリング)事業の実施	P. 7
その他の取組み	P. 7
<b>5. 地域の相談支援の充実</b>	
発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による相談支援等	P. 9
発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化	P. 9
発達障がい者支援マップ	P. 13
その他の取組み	P. 13
<b>6. 支援の引継ぎのための取組</b>	
発達ノート	P. 14
サポートブック	P. 30
<b>7. 市民への啓発</b>	
「世界自閉症啓発デー」「発達障がい啓発週間」普及啓発活動	P. 15
発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化	P. 16
その他の取組み	P. 16

# 1. 早期発見から早期支援へ

## ②発達支援の充実

発達障がいのある児童が早期にその特性に応じた適切な発達支援を受けることができるよう、児童への療育や保護者への研修等を実施する。

### 発達障がい児専門療育

#### 【事業概要】

広汎性発達障がい(自閉症スペクトラム障がい、自閉症及びアスペルガー症候群を含む)の診断を受けた3歳(年少児)～小学3年生までの児童を対象に、児童への個別的・専門的な療育と保護者への研修を行い、親子通園により保護者が療育に参加しながら児童の特性を理解し、療育場面で身に付けたことを日常生活の場に応用できるように支援する。

実施期間：1年間〔専門療育20回・保護者研修10回〕

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】

##### 【専門療育機関の状況(定員枠)】 令和3年12月末現在

機関名称	(所在区)	未就学児	学齢児	合計
児童デイサービスセンターan	(淀川区)	40	20	60
大阪市更生療育センター	(平野区)	40	-	40
bonキッズ谷町	(天王寺区)	20	20	40
bonキッズ北堀江	(西区)	20	20	40
こども発達支援センターaz	(住吉区)	40	20	60
大阪発達総合療育センターあさしお園	(港区)	40	-	40
		200	80	280

##### 【利用登録者・利用者等の状況】

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	計
利用登録者	482	320	349	340	350	309	346	272	203	2971
										未就学 2456
										学齢 515
療育利用者	160	200	280	280	280	280	280	280	265	2305
										未就学 1541
										学齢 764
辞退者	35	40	66	52	69	90	61	49	37	499
										未就学 282
										学齢 217

※令和3年度は令和3年12月末現在

##### 【専門療育機関における個別支援会議の開催】

専門療育を利用している児童やその家族の課題に対し、関係機関の支援者が同じ目線で支援できるように、療育の現状も含めて情報共有を行う。

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
開催回数	—	7回	7回	2回	7回	2回	2回	3回	1回

※令和3年度は8月に開催

##### 【専門療育機関連絡会】

更なる療育の質の向上を目的に、療育機関運営に係る課題の把握、困難事例や改善策の共有等を行う。

年度	開催回数	内容
H27	1	療育機関効果検証結果について、個別支援会議開催状況、意見交換、事業所見学
H28	2	個別支援会議開催等報告、意見交換、事業所見学
H29	2	個別支援会議開催等報告、意見交換、事業所見学
H30	1	個別支援会議開催等報告、意見交換、事業所見学 ※9月は台風のため中止
R元	1	個別支援会議開催等報告、意見交換
R2	1	個別支援会議開催等報告、意見交換
R3	2	専門療育に関する意見交換、保護者研修内容の共有

## 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

### 【令和2年度専門療育修了者アンケート結果】

対象: 令和2年度に専門療育を利用し終了した児童の保護者

(n= 271 )

発達障がい特性について理解できたか		療育が日常生活に役立つと思うか		こどもに良い変化は見られたか		療育で学んだことを家庭でも実施したか	
理解できた	理解できなかった	思う	思わない	見られた	見られなかった	実施あり	実施なし
268	2	268	3	252	19	257	10
98.9%	0.7%	98.9%	1.1%	93.0%	7.0%	94.8%	3.7%

(無回答 1名)

(その他2名・無回答2名)

専門療育事業を利用した90%以上の保護者が、発達障がい特性について理解ができ、療育が日常生活に役立つと考えており、実際の生活の中でこどもの良い変化を実感し、療育で学んだことを家庭でも取り入れて実施したという結果となっている。

### 【平成30年度専門療育修了者アンケート結果】(令和3年1月実施)

対象: 療育終了後1年以上経過した保護者 279名

(n= 76 )

療育が日常生活に役立っているか		療育を受けたことでお子さんに変化は見られましたか			療育の効果は現在も継続しているか (良い変化あり:63名のうち)	
役立っている	役立っていない	よい変化	変化なし	困難感増加	継続している	継続していない
73	3	63	11	1	61	1
96.1%	3.9%	82.9%	14.5%	1.3%	96.8%	1.6%

(無回答 1名)

(無回答 1名)

専門療育事業を利用することで、日常生活に役立っており、療育の効果も継続している

## 令和4年度予定・方向性など

- ・引き続き、6機関定員280名で専門療育を実施する。
- ・個別支援会議や専門療育機関連絡会を積極的に開催し、関係機関、療育機関の情報共有を図る。

## 発達障がい基礎講座(親支援講座)

### 【事業概要】

発達障がいのある児童の保護者を対象に、障がいの特性や支援方法についての講座を実施する。

### 【取組状況】

「5. 地域の相談支援の充実」の「発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化」《親支援講座》 (9ページ～11ページ) 参照

## ソーシャルスキル講座(親支援講座)

### 【事業概要】

発達障がいのある児童の保護者を対象に、対人関係を円滑に進めるための具体的な行動を身につけるため、年齢や特性に応じた家庭での取り組み方についての講座を実施する。

### 【取組状況】

「5. 地域の相談支援の充実」の「発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化」《親支援講座》 (10ページ～11ページ) 参照

## ペアレント・トレーニング(親支援講座)

### 【事業概要】

発達障がいのある児童の保護者を対象に、適切な子育ての方法を学び、身につけるプログラムを実施する。(公開講座、連続講座、フォローアップ講座、実践報告)

### 【取組状況】

「5. 地域の相談支援の充実」の「発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化」《親支援講座》 (10ページ～11ページ) 参照

## 啓発DVDの配布

### 【事業概要】

広汎性発達障がいの特徴、医療機関・家庭等での支援例をまとめた「大阪市発達障がい児療育支援事業啓発DVD 広汎性発達障がいのこどもたちの理解と支援～就学前編～」を配付する。

### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

- ・申込によるDVDの配付を実施している。（令和3年12月末より、申込受付中止）
- ・エルムおおさかホームページにて「ダイジェスト版」の試聴を実施している。

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・家庭や所属園での支援の工夫を知るきっかけづくりとなっている。

### 令和4年度予定・方向性など

- ・引き続き実施する。

## その他の取組み

事業名称： 区役所での取組み

### 【概要・取組状況 など】

令和3年度

事業名称	事業概要
発達障がい児等子育て支援事業 (北区)	発達に課題のあるこどもへの支援のため、未就学児とその保護者を対象としたペアレントトレーニング講座を実施し、こどもの適応行動の増加やよりよい親子関係づくりをめざす。
子育て支援事業 (都島区)	子育てイベント(年6回)(ミニ運動会、親子あそび、似顔絵等)や子育てEXPOの開催、臨床心理士による福祉相談により、学齢期の発達障がい児及び不登校の児童生徒及び家族への支援、発達障がいに対する理解を深めるための研修会開催(年3回)など
発達障がい児の親によるグループカウンセリング (福島区)	対応のノウハウが必要とされる発達障がい児の保護者を対象とした、グループでのピアカウンセリング。
ペアレント・トレーニング講座 (西区)	ADHD(注意欠陥・多動性障がい)や広汎性発達障がいなどのこどもの保護者を対象に、こどもの行動変容(好ましい行動を増やし好ましくない行動を減らす)の技術を保護者が習得することにより、子育てのストレスや親子ともに生活の中での「困り感」を減らし、心地よく生活を送ることができることを目的に開催する。
発達障がい児の養育支援事業 (港区)	養育者同士が情報交換し、同じ経験を持つ養育者に気軽に相談できる場として、ピアカウンセリングの実施や講演会を開催する。
発達に課題のある子どもへの相談支援事業 (港区)	発達に課題のあるこどもと保護者への支援のため、主に2～4歳児を対象とした少人数単位のフォロー教室などを開催する。
地域自立支援協議会(研修会) (西淀川区)	自立支援協議会が行う研修の中で、保護者向けにペアレントトレーニング講座を実施する(幼児・小学生・中学生など)。
発達障がい児等子育て支援事業 (淀川区)	発達障がいのある児童を養育している世帯が、必要な支援を受けられるように、保護者に対するピアカウンセリングや親子講座を実施し、発達障がいのある児童を養育している世帯が安心して子育てできるまちを目指す。
発達に課題のあるこどもへの支援の充実 (生野区)	発達に課題のあるこどもへの支援のため、乳幼児を対象とした少人数単位のフォロー教室などを開催する。発達障がいや療育について、保護者に正しい知識を持ってもらい、こどもへの適切なサポートができることを目指す。
発達に課題のある子どもへの相談支援事業 (旭区)	発達に課題のある子どもへの支援のため、未就園児を対象とした少人数単位のフォロー教室の開催する。子どもが発達障がいがある、あるいは子育てに不安を抱いたり関わり方に悩んでいる保護者を対象にペアトレ講座を開き、子どもの行動を理解し、よりよい親子関係を築くとともに、地域的なつながりの支援をする。
ペアレントトレーニング連続講座 (鶴見区)	子育てに不安感や負担感を持つ保護者に対し、こどもの接し方等を学ぶ。
子育てカウンセリング事業 (阿倍野区)	「発達に気になる子」の居場所の確保に向けて関係機関の連携を深めるとともに、ピアカウンセリングの機会保護者の仲間づくりの支援を行うことにより、子どものライフステージに応じた支援につなげる。
出産・育児総合サポート事業 (東住吉区)	安心して子育てできるよう育児不安や育児困難の軽減を図る事を目的に養育者の健康講座や妊産婦教室・母乳育児相談事業を実施する。また、平時にも心理相談員を配置し、養育者が常時相談できる体制を整えながら、発達障がい児(疑い)の早期発見を目的として、すくすく教室を実施し、小学校就学前のセミナーまでの間のフォロー体制を整備し、妊産婦期から学童期を迎えるまでの間の切れ目のない養育者支援を行う。

## 2. 学齢期の支援の充実

### ②発達支援の充実

発達障がいのある児童が早期にその特性に応じた適切な発達支援を受けることができるよう、児童生徒への療育や保護者への研修等を実施する。

事業については、

「1. 早期発見から早期発達支援へ ②発達支援の充実 発達障がい児専門療育」(1ページ) 参照。

「5. 地域の相談支援の充実 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化《親支援講座》」(9ページ～12ページ) 参照

#### その他の取組み

事業名称: 区役所での取組み

#### 【概要・取組状況など】

令和3年度

事業名称	事業概要
発達障がい児等子育て支援事業 (北区)	発達に課題のある子どもへの支援のため、未就学児とその保護者を対象としたペアレントトレーニング講座を実施し、子どもの適応行動の増加やよりよい親子関係づくりをめざす。
子育て支援事業 (都島区)	子育てイベント(年6回)(ミニ運動会、親子あそび、似顔絵等)や子育てEXPOの開催、臨床心理士による福祉相談により、学齢期の発達障がい児及び不登校の児童生徒及び家族への支援、発達障がいに対する理解を深めるための研修会開催(年3回)など
発達障がい児の親によるグループカウンセリング (福島区)	対応のノウハウが必要とされる発達障がい児の保護者を対象とした、グループでのピアカウンセリング。
発達障がい児の養育支援事業 (港区)	養育者同士が情報交換し、同じ経験を持つ養育者に気軽に相談できる場として、ピアカウンセリングの実施や講演会を開催する。
地域自立支援協議会(研修会) (西淀川区)	自立支援協議会が行う研修の中で、保護者向けにペアレントトレーニング講座を実施する(幼児・小学生・中学生など)。
発達障がい児等子育て支援事業 (淀川区)	発達障がいのある児童を養育している世帯が、必要な支援を受けられるように、保護者に対するピアカウンセリングや親子講座を実施し、発達障がいのある児童を養育している世帯が安心して子育てできるまちを目指す。
子育てカウンセリング事業 (阿倍野区)	専門家によるカウンセリングや助言等による発達が気になる子どもの支援と保護者の仲間づくりの支援。
出産・育児総合サポート事業 (東住吉区)	安心して子育てできるよう育児不安や育児困難感の軽減を図る事を目的に養育者の健康講座や妊産婦教室・母乳育児相談事業を実施する。また、平時にも心理相談員を配置し、養育者が常時相談できる体制を整えながら、発達障がい児(疑い)の早期発見を目的として、すくすく教室を実施し、小学校就学前のセミナーまでの間のフォロー体制を整備し、妊産婦期から学童期を迎えるまでの間の切れ目のない養育者支援を行う。

### ③自立支援の充実

発達障がいのある児童生徒が成人期に自立した生活を送ることができるよう、自立をするために必要なスキルの獲得の支援や就労の支援を実施する。

#### その他の取組み

事業名称: 区役所での取組み

#### 【概要・取組状況など】

令和3年度

事業名称	事業概要
発達障がい教育支援事業(心理相談事業) (住吉区)	区内の市立小中学校に在籍する発達障がいの児童等が背景にあり、行動面や学習面で困難を有している児童について、心理の専門的な知識や経験を有する心理相談員が、学校からの相談に応じ助言やケースカンファレンスを通じて児童の成長発達を促進する(心理相談員2名)。



### 3. 成人期の支援の充実

#### ① 自立支援の充実

発達障がいがある成人が、自立した生活を送ることができるよう、自立するためのスキルの獲得の支援を実施する。

#### 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による発達支援

##### 【事業概要】

発達障がいがある青年を対象に、自己理解や感情のコントロールなど、ライフスキルを高めるための発達支援を行う。

##### 【令和3年度 取組状況】

事業名	「こころとからだのワークショップ」	
対象者	令和2年度～令和3年度にエルムおおさかに就労等を目的に相談来所され、まだ就労支援機関の利用に至っていない、成人期の発達障がいのある方。グループワーク(GW)に参加可能な方が少ないこともあり、支援手法の普及を目的に、職業リハビリテーションセンター ジョブコミュニケーション科(当事者5名)と共催でワークショップを実施した。	
目的	発達障がいのある成人期の方たちが、小グループでのグループワークを通じて、感情やそのコントロール方法、感情とからだのつながり等について学び、からだを動かすことによるリラックス効果や楽しさを体験したり、自分の得意・不得意について話し合う機会を設定することにより、就労するために大切な「健康維持」「感情のコントロール」「自己理解」への気づきと日常生活での工夫などについて学ぶ。また、パーソナルスペースや恋愛、からだの変化などについて話し合うことで社会生活における適度な対人距離の取り方や異性への適切なアプローチの仕方などについて学び合うことを目指す。	
開催回数	連続6回の講座 (1回/1か月の頻度で実施)	
開催時期	R3年10月～R4年3月	
開催場所	大阪市立長居障がい者スポーツセンター	
参加者数	当事者3名(1名は途中棄権)、支援機関(当事者5名・支援者1名)	
方法・内容	①方法	グループワーク(GW)+からだを動かす体験 ・GW:ワークシート活用による学習、話し合い ・からだを動かす体験:深呼吸、ストレッチ、ヨガ、軽スポーツなど
	②GW内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 自己紹介、感情学習(うれしい・リラックスした)、きっかけカード・楽しいことの本・コーピンググッズの紹介・体験、好きなこと探し</li> <li>・2回目 感情学習(うれしい・リラックスした)(どんな時に・からだの状態)、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験、脳内ホルモンの話(人を好きになる、を含む)と恋愛の話</li> <li>・3回目 うれしいこと日記、感情学習(不安・怒り)(どんな時に・からだの状態)、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験</li> <li>・4回目 うれしいこと日記、きっかけカードを使ってみた感想、不安を減らすのに役立つ活動、感情修復ツールの作成・紹介、コーピンググッズの紹介・体験、人と人との関係(親しさレベルの確認)・対人距離ワーク</li> <li>・5回目 うれしいこと日記、感情修復ツールを使ってみた感想、対人距離ワーク、好きな人ができたとき・職場の人間関係ワーク、コーピンググッズの紹介・体験</li> <li>・6回目 うれしいこと日記、感情修復ツール(ツールボックス)を使ってみた感想、各自の特徴・ストレス解消方法のまとめ、コーピンググッズの紹介・体験</li> </ul>
支援者向け講座	2回開催 成人期支援者向けワークショップ「発達障がいのある方のセクシュアリティ支援」 参加者:障がい福祉サービス事業所等の成人期支援者 51名 【※5. 地域の相談支援の充実の「支援者講座」欄に別途記載。】	

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・グループワークの普及をめざして積極的に支援機関に働きかけ、共催や支援者の参加の機会を設定し、引き続きグループワークの普及を目指す。効果検証により客観的な指標を活用する。
- ・本人に関わるさまざまな支援者が支援現場で着実に活用することができるよう、「こころとからだづくり」をめざす支援手法(GW)やセクシュアリティ支援について、更に普及を進めていくことが今後の課題である。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・引き続き実施を検討する。



## ②就労支援の充実

発達障がいがある成人が自立した生活を送ることができるよう、就労に向けた相談、情報提供や助言、関係機関・事業所とのコーディネート等を通じて就労支援を実施する。

### 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による就労支援

#### 【事業概要】

就労を希望する発達障がいがある人を対象に、関係機関と連携しながら就労に向けての情報提供や助言、就職に関する実習・相談を実施する。

#### 【令和3年度 取組状況】

事業名	「発達障がいがある学生等の就労準備支援事業」
対象者	今年度エルムおおさかに相談来所された、大学等に在学中(含既卒)の発達障がいがある青年
目的	発達障がいがある学生が在学中に発達障がいの特性をふまえた講座や企業での実習体験を含む就労準備支援プログラムに参加することにより、就業イメージを持つこと、就労意欲を向上させること、各自に合った職業の選択を考えるきっかけとする。また、支援者・当事者の両方に障がい者雇用や特例子会社、就労移行支援事業所等就労支援機関・サービスについて情報提供し卒業後の進路選択の一助とし、結果的に卒業後どこにも所属していない状態を回避することを目指す。
開催回数	連続2回の講座+企業見学会 計3回
開催時期	令和3年2月～3月
開催場所	連携就労移行支援事業所(サテライトオフィス平野)、特例子会社
参加者数	当事者5名(大学・専門学校在学学生;既卒を含む)
方法・内容	<発達障がいのある学生を対象にしたインターンシップ事業> ① 履歴書作成会(履歴書・自己PR書の作成、個別相談) R4. 2.-3. ② 面接時のマナー講座 R4.3. ③ 企業見学会(見学+体験談; 特例子会社 株式会社旭化成アビリティ 大阪営業所) R4.3.23.

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

・コロナ禍にあるため、感染予防対策を講じた上で少人数での会社見学を企画している。令和2年度と同様、履歴書作成と面接時のマナー講座(少人数)を連携する事業所での実施する予定である。

#### 令和4年度予定・方向性 など

・令和4年度についても、対象となる大学生、専門学校生からの個別相談があれば、「企業見学会」「履歴書講座」「面接時のマナー講座」などを開催し、在学中に就職について考え直す機会や就活する際に具体的に必要なマナー等を学ぶ機会を設定・実施していく。

## 4. 家族に対する支援の充実

発達障がいのある人の家族が、発達障がいについて理解し適切な支援を行うことができるよう、研修等を実施するとともに、先輩保護者がその経験を生かし相談や助言を行う活動を実施する。

### ペアレント・トレーニング等の親支援講座の実施

#### 【事業概要】

「1. 早期発見から早期発達支援へ ②発達支援の充実」(1ページ～3ページ) 参照

### ペアレント・メンター(ピア・カウンセリング)事業の実施

#### 【事業概要】

発達障がいのある児童の保護者を対象に、先輩保護者がその経験を生かし相談や助言を実施するとともに、地域の保護者同士の仲間づくりを支援する。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】

- ・区独自事業として発達障がいをもつ保護者へのピア・カウンセリングやペアレント・メンターとの座談会等を実施している。(福島区、港区、淀川区、阿倍野区)
- ・「ペアレント・トレーニング実践報告会」を令和3年3月5日に開催し、連続講座に参加された4名のお母さんよりグループワークの効果等体験談を伺う機会を持った。
- ・令和4年度の「ペアレント・トレーニング」の実践報告会は、令和4年3月1日に実施予定

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・発達障がいのある児童の保護者が、先輩保護者の経験や助言を聴くことにより負担感の軽減につながる。また、地域での保護者同士の交流により孤立感の改善にもつながっている。
- ・受講した保護者の体験談報告を聴くことで、受講者がペアレント・トレーニングをより実感することができ、ペアレント・トレーニング講座への参加希望につながっていくと考える。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・引き続き実施する。

### その他の取組み

事業名称: 区役所での取組み

#### 【概要・取組状況 など】

令和3年度

事業名称	事業概要
発達障がい児等子育て支援事業 (北区)	発達に課題のあるこどもへの支援のため、未就学児とその保護者を対象としたペアレントトレーニング講座を実施し、こどもの適応行動の増加やよりよい親子関係づくりをめざす。
子育て支援事業 (都島区)	子育てイベント(年6回)(ミニ運動会、親子あそび、似顔絵等)や子育てEXPOの開催、臨床心理士による福祉相談により、学齢期の発達障がい児及び不登校の児童生徒及び家族への支援、発達障がいに対する理解を深めるための研修会開催(年3回)など
発達障がい児の親によるグループカウンセリング (福島区)	対応のノウハウが必要とされる発達障がい児の保護者を対象とした、グループでのピアカウンセリング。
発達障がい児の養育支援事業 (港区)	養育者同士が情報交換し、同じ経験を持つ養育者に気軽に相談できる場として、ピアカウンセリングの実施や講演会を開催する。

<p>地域自立支援協議会(研修会) (西淀川区)</p>	<p>自立支援協議会が行う研修の中で、保護者向けにペアレントトレーニング講座を実施する(幼児・小学生・中学生など)。</p>
<p>発達障がい児等子育て支援事業 (淀川区)</p>	<p>発達障がいのある児童を養育している世帯が、必要な支援を受けられるように、保護者に対するピアカウンセリングや親子講座を実施し、発達障がいのある児童を養育している世帯が安心して子育てできるまちを目指す。</p>
<p>子育てカウンセリング事業 (阿倍野区)</p>	<p>専門家によるカウンセリングや助言等による発達が気になる子どもの支援と保護者の仲間づくりの支援。</p>
<p>出産・育児総合サポート事業 (東住吉区)</p>	<p>安心して子育てできるよう育児不安や育児困難感の軽減を図る事を目的に養育者の健康講座や妊産婦教室・母乳育児相談事業を実施する。また、平時にも心理相談員を配置し、養育者が常時相談できる体制を整えながら、発達障がい児(疑い)の早期発見を目的として、すくすく教室を実施し、小学校就学前のセミナーまでの間のフォロー体制を整備し、妊産婦期から学童期を迎えるまでの間の切れ目のない養育者支援を行う。</p>

## 5. 地域の相談支援の充実

発達障がいのある人が、本人の意思ができる限り尊重され、地域で安心して自分らしく自立した生活を送ることができるよう、発達障がい者支援センター(エルムおおさか)における相談支援体制を充実するとともに、地域の関係機関・事業所が発達障がいを正しく理解し適切な支援を行うことができるよう、啓発・研修・機関支援を実施する。

### 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による相談支援等

#### 【事業概要】

発達障がいのある人やそのご家族からの相談を受け、情報提供や助言を行うとともに、関係機関と連携し支援を行う。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】

- 令和3年12月末時点での相談等支援実人数は649人である。
- また、相談者の年齢別構成割合は、成人期が約8割、学齢期が約2割、乳幼児期は1割未満となっている。
- 発達相談の内容としては、「現在の生活に関することや、家庭で家族が出来ることを知りたい」(41.4%)が最も多く、次に「診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい」(15.8%)、その次に「利用できる制度について知りたい」(10.3%)が多い。

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- 乳幼児期の相談が1割未満という点については、乳幼児健診からの相談支援システムの充実や支援施策の充実(親支援講座・専門療育等)、身近な機関(区保健福祉センターなど)で情報提供を受けることができるような体制が整ってきた効果と考えられる。
- 成人期の相談支援では、本人や保護者からの相談だけでなく、配偶者や会社の上司からの相談があるなど、ケースの多様化に伴う支援ニーズの多様化が見られる。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- 引き続き、多様化するニーズに対応しながら、情報提供や助言、関係機関との連携による支援を実施していく

### 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化

#### 【事業概要】

発達障がい者支援センター(エルムおおさか)に地域サポートコーチを配置し、地域の関係機関事業所等への啓発・研修・支援、ペアレント・トレーニング等の親支援講座を実施する。

#### 《親支援講座》

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】

#### ①発達障がい基礎講座

R 2 年 度	ASD(自閉スペクトラム症)講座			学習支援講座(LD)			ADHDスポット講座		
	回数	延人数	うち支援者参加%	回数	延人数	うち支援者参加%	回数	延人数	うち支援者参加%
	4	97	55.6	5	130	46.9	1	58	43.1
	〈2回/1クール×2クール〉 ・わかりやすい環境づくり ・気になる行動の考え方			「幼児期:ことばの指導」 「学齢期:基礎『読み書き』」 「学齢期(高学年):読み書き」 「学齢期:話す・聞く」 「学齢期:計算」			「ADHDのある方の特徴と支援」		
	ちょっと気になる子どもたちのからだ講座			心理的疑似体験プログラム			当事者による講演会(体験談等)		
	2	55	72.7	1	9		1	76	72.3
	〈2回/1クール×2クール〉 ・感覚と運動発達の視点から ・身体と手先の動きを育てよう ※6/9、7/14については、新型コロナ感染拡大防止のため中止			・心理的疑似体験プログラム(第3版)で学習時の「聞く・話す・読む・書く」の苦手さを理解しよう ※5/25については、新型コロナ感染拡大防止のため中止			人とかかわることの困難～自閉症と愛着問題をめぐる2つのエピソード～		
	保護者支援講座								
	1	80	66.2						
	・子どもたちはネットの世界で何を求め、何をしているのか								

R3年度 (12月末)	基礎講座			ASD(自閉スペクトラム症)講座			学習支援講座(LD)					
	3	回	延 67 人	—	回	延 — 人	—	回	延 93 人	71.0 %		
	<4回予定> 「幼児期:発達障がい理解と支援(基礎)」R3.7実施 「幼児期:発達障がい理解と支援(プラス)」R3.9実施 「学齢期:発達障がい理解と支援(基礎)」R3.12実施 「学齢期:発達障がい理解と支援(プラス)」R4.3予定			<2回/1クール×1クール予定> ・わかりやすい環境づくり ・気になる行動の考え方 ※R4.2月予定			<5回予定> 「幼児期:ことばの指導」:R3.9月実施 「学齢期:基礎『読み書き』」:R3.6実施 「学齢期(高学年):読み書き」:R3.12月実施 「学齢期:話す・聞く」:R3.9月 「学齢期:計算」:R4.2月予定					
	ADHDスポット講座			学齢期のADHD講座			ちょっと気になる子どもたちのからだ講座					
	1	回	延 36 人	うち支援者参加 38.9 %	1	回	延 61 人	うち支援者参加 55.7 %	2	回	延 61 人	うち支援者参加 82.0 %
	<1回実施> 「ADHDのある方の特徴と支援」R3.12実施			<1回実施> ・児童・思春期のADHD R3.10実施			<2回/1クール実施> ・感覚と運動発達の視点からR3.9実施 ・身体と手先の動きを育てようR3.10実施					
	心理的疑似体験プログラム			保護者向けライフスキル講座			デジタル支援講座					
	—	回	延 — 人	うち支援者参加 — %	—	回	延 — 人	うち支援者参加 — %	1	回	延 20 人	うち支援者参加 60.0 %
	<1回予定> ・心理的疑似体験プログラム(第3版)で学習時の「聞く・話す・読む・書く」の苦手さを理解しよう ※R4.1月に1回予定			<1回予定> ・保護者向けライフスキル講座 ※R4.2月予定			<1回実施> ・スマホ・ケータイ安全教室 R3.8実施					
	当事者による講演会(体験談等)			家族支援講座								
1	回	延 52 人	うち支援者参加 38.5 %	—	回	延 — 人	うち支援者参加 — %					
<1回実施> ・当事者による体験談 R3.11実施			<1回予定> ・きょうだい支援 ※R4.1月予定									

②ソーシャルスキル講座 ※令和3年度は「保護者向けソーシャルスキル講座」に名称変更

R2年度	幼児版			学齢期版(低学年)				
	3	回	延 69 人	うち支援者参加 21.7 %	3	回	延 40 人	うち支援者参加 30 %
・幼児期で身につけたいソーシャルスキルについて			・小学校(低学年)で身につけたいソーシャルスキルについて					
R3年度 (12月末)	幼児版			学齢期版(低学年)				
	3	回	延 41 人	うち支援者参加 65.9 %	3	回	延 69 人	うち支援者参加 17.4 %
<3回/1クール実施> ・幼児期で身につけたいソーシャルスキルについて R3.9、10月実施			<3回/1クール実施> ・小学校(低学年)で身につけたいソーシャルスキルについて R3.11実施					

③ペアレント・トレーニング ★は令和3年度は支援者講座に記載

R2年度	公開講座			連続講座(幼児版)			連続講座(学齢児版)						
	2	回	延 79 人	うち支援者参加 40.5 %	30	回	延 29 人	70	回	延 48 人			
	・発達障がいのある児童の特性や対応方法 ・目的、概要、実践、効果の紹介など ※6/25については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			<6回/1クール×5クール> ・子どもの行動観察、特性の理解 ・適切な対応方法、実践など ※8クールのうち、4クールは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、残り4クールは申込が少数のため中止。			<10回/1クール×7クール> ・子どもの行動観察、特性の理解 ・適切な対応方法、実践など ※2クールは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。						
	フォローアップ(幼児版)			フォローアップ(学齢児版)			実践報告会			★ティチャーズ・トレーニング			
	5	回	延 14 人	6	回	延 23 人	1	回	延 78 人	うち支援者参加 74.3 %	12	回	延 12 人
	・連続講座修了後の家庭での取組や課題等について再整理・共有			・連続講座修了後の家庭での取組や課題等について再整理・共有			・連続講座修了後の実践報告			<6回/1クール×2クール> ・子どもの行動観察、特性の理解 ・適切な対応方法、実践、保護者支援など			

R3年度 (12月末)	公開講座			連続講座(幼児版)		連続講座(学齢児版)	
	3回	124人	うち支援者参加 42.7%	18回	34人	43回	37人
	<3回実施> ・発達障がいのある児童の特性や対応方法 ・目的、概要、実践、効果の紹介など R3.6、8、11月実施			<6回/1クール×6クール予定> ・こどもの行動観察、特性の理解 ・適切な対応方法、実践など ※R3.6～R4.3月の期間で予定 6クール予定のうち、1クールは 申込少数のため中止		<10回/1クール×5クール、9回/1クール×1クール予定> ・こどもの行動観察、特性の理解 ・適切な対応方法、実践など ※R3.6～R4.3月の期間に予定	
フォローアップ(幼児版)		フォローアップ(学齢児版)		実践報告会			
2回	4人	3回	7人	—回	—人	—回	—人
<3回予定> ・連続講座修了後の家庭での取組や課題等について再整理・共有 R3.10、11実施 R4.2予定		<6回予定> ・連続講座修了後の家庭での取組や課題等について再整理・共有 R3.7実施(3回) R4.2、3予定(3回)		<1回予定> ・連続講座修了後の実践報告 ※R4.3月予定			うち支援者参加 —%

**効果・課題・令和3年度からの変更点 など**

**①発達障がい基礎講座(ASD、LD、ADHD) 及び ②ソーシャルスキル講座 R3.12末時点**

- ・受講者アンケート結果では、いずれの講座も「理解度」「満足度」とともに92%以上であった。
- ・当事者による体験談などを交えた講演会は、「理解度」「満足度」とともに90%以上の人から「わかりやすかった」、「参考になった」との感想があった。
- ・「デジタル支援講座」では、子ども達がSNSやインターネットと付き合うために、保護者が知らなければいけないネットリテラシー等について講演を実施し、「理解度」、「満足度」とともに95%以上であった。
- ・受講ニーズに応じて、対象者や開催回数の編成等に工夫を行う。

**③ペアレント・トレーニング R3.12末時点**

- ・発達障がいの子どもの行動を理解するポイントや子どもへの関わり方を学ぶことで、子育ての負担感を軽減でき、保護者同士の交流が孤立感の改善につながっている。
- ・令和2年度からペアレント・トレーニングの保育士版としてティーチャーズ・トレーニングを新規で開催。

**令和4年度予定・方向性 など**

**①発達障がい基礎講座(ASD、LD、ADHD) 及び ②ソーシャルスキル講座**

- ・R3年度と同等の内容で開催予定。
- ・引き続き、受講ニーズに応じて、対象者や開催回数の編成等に工夫を行う。

**③ペアレント・トレーニング**

- ・公開講座、連続講座(幼児版・学齢児版)、フォローアップ(幼児版、学齢児版)、実践報告回を引き続き開催する。

**《支援者講座》**

**【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】**

**◆集合研修 ☆は令和2、3年度からの新規講座**

R2年度	啓発講座		支援者講座			
	対象者	回数・人数	講座名	対象者	回数	人数
区発達障がいサポーター、区内PT A、家庭児童相談員、指定障がい児事業者、自立支援協議会、雇用支援ネットワークジョブコーチ養成講座、大阪府看護協会、福祉局職員、子ども青少年局職員、保護者など	10回	170人	基礎講座	児童発達支援/放課後等デイサービス事業所支援者向け	2回	160人
				成人支援事業所支援者向け	2回	145人
			支援者ライフスキル講座(中高生)	中高生・成人期の支援者	1回	84人
					支援者ライフスキル講座(成人期)	1回
			子どもの幼児期からの支援	区役所の保健師・心理相談員・保育士・家庭児童相談員	1回	33人
			☆ セクシャリティ支援	成人期支援事業所支援者	2回	36人



R3年度(12月末)	啓発講座		支援者講座					
	対象者	回数・人数	講座名	対象者	回数	人数		
当事者、保護者、団体など	7回	145人	基礎講座	指定障がい福祉事業所向け<2回実施>	※R3.7、11月実施	2回	162人	
				児童発達支援/放課後等デイサービス事業所支援者向け<1回実施>	※R3.12月実施	1回	30人	
				成人支援事業所支援者向け<1回実施>	※R3.8月実施	1回	32人	
				☆支援者向け心理的疑似体験プログラム	発達障がい児にかかわる支援者<1回実施>	※R3.7月実施	1回	20人
				☆支援者向けライフスキル講座	支援者<1回予定>	※R4.1月予定	—回	—人
				子どもの食に関する課題への支援方法	区役所の保健師・心理相談員・保育士・家庭児童相談員<1回実施>	※R3.8月実施	1回	24人
			セクシャリティ支援	成人期支援事業所支援者向け<2回予定>	※R4.2月予定	—回	—人	

◆ティーチャーズ・トレーニング講座 ※令和3年12月末時点

対象者	回数	人数
保育所(園)に勤務している年少～年長の担当保育士(6回/1クール×2クール 12回実施)	12回	16人

※令和2年度の実績はペアレントトレーニングに記載。

◆機関コンサルテーション

1. 出前講座 ※令和3年度は令和3年12月末時点

機関	保育所・園		障がい児支援機関		青年・成人支援機関		計		
	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	
基礎講座	回数	2	—	1	1	2	4	5	5
	参加人数	22	—	14	10	39	66	75	76

2. 訪問支援 ※令和3年度は令和3年12月末時点

機関	私立保育園		障がい児支援機関		教育関係機関		成人期支援機関		その他		計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
延訪問回数	64	54	5	1	—	—	29	24	6	7	104	86
実訪問所数	27	25	3	1	—	—	10	7	6	7	46	40

◆成人支援講座(成人期スキルアップ事業):各1回開催、障がい者支援機関対象

R2年度	基礎講座			ガイダンス		まとめ報告会		実践報告会(基礎講座+実践報告)			
	1回	延	うち支援者参加	1回	延	1回	延	1回	延	うち支援者参加	
	53人	98.1%	6人	—	—	6人	66人	92.4%	・発達障がい者支援についての基礎講座 ・5事業所から取組内容報告 ・担当コンサルからの講評・助言 ・講師からの総括的な提言		
	・困難事例の検討			・コンサル希望の5事業所(基礎講座修了済)が対象 ・コンサルテーションの意義等		・左記5事業所を対象に各4回のコンサル終了後に実施 ・取組内容の整理 ・支援の方向性など					
R3年度(12月末)	基礎講座			ガイダンス		まとめ報告会		実践報告会(基礎講座+実践報告)			
	1回	延	うち支援者参加	1回	延	—回	延	—回	延	うち支援者参加	
	77人	100.0%	12人	—	—	—	—	—	—	—	
	・困難事例の検討			<1回実施> ・コンサル希望の5事業所(基礎講座修了済)が対象 ・コンサルテーションの意義等 R3.7月実施		<1回予定> ・左記5事業所を対象に各4回のコンサル終了後に実施 ・取組内容の整理 ・支援の方向性など ※R4.1月予定		<1回予定> ・発達障がい者支援についての基礎講座 ・5事業所から取組内容報告 ・担当コンサルからの講評・助言 ・講師からの総括的な提言 ※R4.3月予定			

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

・令和3年8月に区保健福祉センター職員向け支援者講座として実施した「子どもの食に関する課題への支援方法」は、発達障がいのあるお子さんの食に関する課題への支援など、日々の支援に役立つ内容を学ぶことができ、「理解度」「満足度」とともに100%であった。

・児童発達支援・放課後等デイサービス支援者向け、成人支援事業所支援者向け講座として実施した「基礎講座」は、「理解度」「満足度」とともに95%以上の方から分かりやすかった、大変参考になったとの回答があり、好評であった。

### 令和4年度予定・方向性 など

- ・令和3年度と同等の内容で開催予定。
- ・受講ニーズに応じて、支援者の受講しやすい時期の開催や、定員の拡充等の工夫を行う。

## 発達障がい者支援マップ

### 【事業概要】

発達障がいのある人やそのご家族が、年齢や相談内容に応じた相談機関を探せるようまとめたホームページを公開している。

### 【令和2年度 取組状況】

- ・「年齢階層」「相談のきっかけ」別で、必要な相談機関の情報につながるよう取り組んでいる。
- ・関係機関の実務者が集まる「発達障がい者支援センター連絡協議会」において、各関係先の提供情報について確認修正を行った。

### 【令和3年度 取組状況（12月末）】

- ・引き続き、必要な相談機関の情報につながるよう取り組んでいる。

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・発達障がい者支援センターホームページに掲載することで、広く周知できている。

### 令和4年度予定・方向性 など

- ・引き続き実施する。

## その他の取組み

事業名称： 区役所での取組み

### 【概要・取組状況 など】

令和3年度

事業名称	事業概要
学齢期及び乳幼児期用電子リーフレット掲載 (東成区)	乳幼児期から学齢期までの途切れのない一貫した相談支援体制を構築するとともに障がい者・当事者に関する人々や関係機関に対し発達障がいに関する理解を深めることを目的に電子リーフレットをホームページに掲載する。
発達障がい教育支援事業(心理相談事業) (住吉区)	区内の市立小中学校に在籍する発達の特性等が背景にあり、行動面や学習面で困難を有している児童について、心理の専門的な知識や経験を有する心理相談員が、学校からの相談に応じ助言やケースカンファレンスを通じて児童の成長発達を促進する(心理相談員2名)。

## 6. 支援の引継ぎのための取組

発達障がいのある人が、支援者(機関)が代わっても、適切な支援を受け、安心して生活を送ることができるよう、その特性や支援についての情報を引き継ぐ取組みを実施する。

### 発達ノート

#### 【事業概要】

発達障がいのある人が周囲から適切な理解や支援を受けられるよう、ご本人やご家族が特性や支援経過を記載し、相談機関に行くときや初めて接するときに提示するノートを配付する。

#### 【令和2年度 取組状況】

発行部数 : 238 部 / 累計 2,586 部 (※H22.1~)

〈周知の機会〉

エルムおおさか利用者

乳幼児健康診査・発達相談等の後送医療機関

専門療育利用対象者(保護者研修会等)

親支援講座(ペアレント・トレーニング等)

#### 【令和3年度 取組状況 (12月末)】

発行部数 : 124 部 / 累計2,710 部

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・初めての機関を利用する時など、自身および児童の特性の説明を行うための補足資料として活用されている。
- ・「発達ノート」も含め、当事者・保護者・支援者(支援機関)からの意見を踏まえ、より活用しやすい内容・仕組みづくりに向け、「情報共有ツール」について見直し検討に取り組む。
- ・引き続き、あらゆる機会を捉えて交付していく。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・「発達ノート」も含め、当事者・保護者・支援者(支援機関)からの意見を踏まえ、より活用しやすい内容・仕組みづくりに向け、「情報共有ツール」について見直し検討するとともに、普及啓発に取り組む。

## 7. 市民への啓発

発達障がいのある人が、地域で安心して生活することができるように、発達障がいに対する正しい理解と支援について、普及啓発活動を実施する。

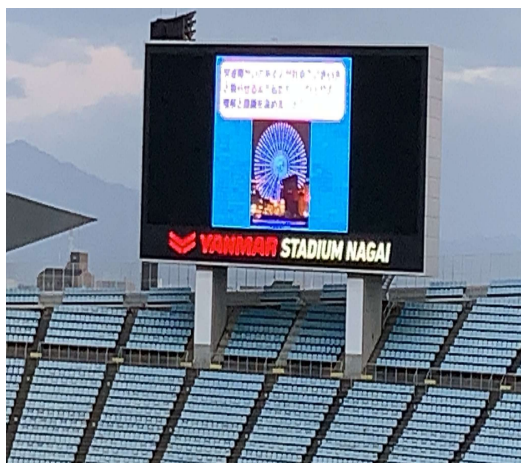
### 「世界自閉症啓発デー」・「発達障がい啓発週間」普及啓発活動

#### 【事業概要】

市民に発達障がいに対する正しい理解を深めていただくため、「世界自閉症啓発デー」（4月2日）、「発達障がい啓発週間」（4月2日～8日）を中心に、大阪府・関係団体・民間企業と連携し、広報、大阪城天守閣・通天閣・天保山大観覧車のブルーライトアップなど、普及啓発事業を実施。

#### 【令和2年度 取組状況】

- ・「世界自閉症啓発デー」、「発達障がい啓発週間」にあわせて、市ホームページ及び広報紙による広報並びに各区役所、Osaka Metro主要駅22駅、市立小・中・高等学校、市立幼稚園、公民保育所やイオングループ店舗、大阪シティ信用金庫、郵便局の市内の営業店舗等でのポスター掲示、リーフレット配付を実施。
- ・「世界自閉症啓発デー」（4月2日）に、一般社団法人大阪自閉スペクトラム症協会、大阪府と連携し、大阪城天守閣、天保山大観覧車及び大阪市役所のブルーライトアップを実施。
- ・3月1日から31日までの期間、市役所1階市民ロビーの大型モニターに「世界自閉症啓発デー」、「発達障がい啓発週間」啓発映像を放映。また期間中に、市役所1階市民ロビーから南玄関への通路にポスター掲示を実施。



・株式会社セレッソ大阪（セレッソ大阪）、オリックス野球クラブ株式会社（オリックス・バファローズ）、サントリーホールディングス株式会社（サントリーサンバーズ）の各スポーツチームの協力により、発達障がい者啓発週間期間中のホームゲームにおいて、会場での啓発ポスター掲示や、大型スクリーンを使った発達障がい啓発メッセージの放映、スタジアムDJのアナウンス等の啓発活動を実施。また、セレッソ大阪の協力により、セレッソ大阪のホームページにより「世界自閉症啓発デー」、「発達障がい啓発週間」の広報活動を実施。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により「世界自閉症啓発デー」（4月2日）の通天閣のブルーライトアップは中止となった。
- ・ヒューマンプランニング株式会社（大阪エヴェッサ）の協力による発達障がい啓発週間期間中のホームゲームにおける啓発活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

#### 効果・課題など

「障がい者等基礎調査」においても、発達障がい困っていることについて、「周りの理解がない」が上位にあがっている。

啓発活動には終わりがなく、継続して行うことが必要であり、求められている。

#### 令和3年度予定・方向性 など

- ・引き続き、市ホームページ及び広報紙による広報並びにポスター掲示やリーフレットの配付、「世界自閉症啓発デー」（4月2日）に、大阪城天守閣等のブルーライトアップを実施予定。
- ・野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールなどプロスポーツチーム等の大阪ホームゲーム会場でのポスター掲示やリーフレットの配付、啓発メッセージの放映、スタジオDJによるアナウンス等を実施予定。

## 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)による地域サポート体制の強化

### 【事業概要】

「5. 地域の相談支援の充実」の同項(9ページ～12ページ)参照。

### その他の取組み

事業名称: 区役所での取組み

### 【概要・取組状況など】

令和3年度

事業名称	事業概要
学齢期及び乳幼児期用電子リーフレット掲載 (東成区)	乳幼児期から学齢期までの途切れのない一貫した相談支援体制を構築するとともに障がい者・当事者に関する人々や関係機関に対し発達障がいに関する理解を深めることを目的に電子リーフレットをホームページに掲載する。
発達障がい者への理解のための区民学習会 (平野区)	発達障がいの正しい理解促進を図るため「区民学習会」を開催する。



# 1. 早期発見から早期支援へ

## ①乳幼児健康診査等の充実

各区保健福祉センターで実施する1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、発達相談（フォローアップ健康診査）、4・5歳児発達障がい相談等の乳幼児健康診査事業等を通じて、発達障がいの可能性のある児童を早期に発見し、継続的な支援を行うとともに診断や専門的支援につなげる。

### 健診従事者への研修の実施

#### 【事業概要】

保健師、心理相談員等の健診従事者が、発達障がいの特性や療育等の支援について理解し、早期発見・早期支援が効果的に実施されるよう研修を実施する。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

##### ①各種研修受講者数(延人数)

令和3年12月末現在

	母子保健従事者研修会(基礎編)	母子保健従事者研修会(応用編)
R2年度	前期:45名 後期:47名 (前期:保健師40名+心理相談員5名) (後期:保健師38名+心理相談員9名)	※1
R3年度	前期:60名 後期:59名 (前期:保健師55名+心理相談員5名) (後期:保健師54名+心理相談員5名)	保健師24名(聴講者9名を含む)

※1 隔年実施。R2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からR3年度に延期

##### ②令和3年度研修内容

- 母子保健従事者研修会(基礎編)では、発達障がいの基礎知識や早期発見・支援のポイント、医療的アプローチ、児童虐待との関係及び関係機関との連携等についての講義を実施。
- 母子保健従事者研修会(応用編)では、個人だけでなく家族を支援する視点で、発達障がいを含む複合課題をもつ世帯の支援についての知識や技術の習得をめざし講義を実施。

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- 母子保健従事者研修会(基礎編)は、採用後1～5年目の保健師を対象としており、採用後早い段階で基礎を身に付ける前期研修、数か月の経験を積んだことでの疑問や振り返りができる後期研修という講義の組み立てを行うことで知識や技術の習得がしやすくなるため、平成29年度からこの形式で実施している。
- 母子保健従事者研修会(応用編)は、採用6年目以降管理期までの保健師を対象に、個人だけでなく家族全体を支援する視点で、発達障がいを含む複合課題をもつ世帯の支援についての知識や技術の習得をめざし隔年で実施している。令和2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から令和3年度に実施した。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- 継続実施。但し、母子保健従事者研修会(応用編)は隔年で実施しており、次回は令和5年度に実施予定



## 乳幼児発達相談体制の強化

### 【事業概要】

各区保健福祉センターに心理相談員を配置し、乳幼児の発達相談体制を強化するとともに、継続的な支援を充実させる。

### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

#### 【4・5歳児発達障がい相談事業実績】

令和3年度は、令和3年12月末現在

	実施回数	延相談数	相談契機						結果内訳				専門機関紹介 内訳	
			養育者からの相談	通所施設からの勧奨	3歳児健診のフォロー	発達相談のフォロー	保健師による相談	その他	助言	専門機関紹介	経過観察	その他	医療機関	こども相談センター
R2年度	173	275	118	87	28	23	9	10	23	192	50	10	180 (65.5%)	12 (4.4%)
R3年度	146	253	106	65	41	23	4	14	12	199	35	7	183 (72.3%)	16 (6.3%)

#### 【乳幼児健康診査・発達相談における心理相談状況】(延人数)

令和3年度は、令和3年12月末現在

	1歳6か月児健診当日	3歳児健診当日	発達相談	合計
R2年度	1,210	853	3,302	5,365
R3年度	949	1,037	3,229	5,215

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- 令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて一時期、1歳6か月児及び3歳児健康診査を延期していたが、令和3年度においては、感染予防策を講じたうえで健康診査の実施を継続している。
- 平成25年度より各区に心理相談員を配置したことで、相談ニーズに対応しやすく継続した支援が可能となった。家庭訪問や保育施設等関係機関と連携を行い、専門的見地から普段の児童の様子を把握し、発達状況を多面的情報から判断している。区の実情に合わせ、心理相談員を複数配置する取組みを行っている区もある。

### 令和4年度予定・方向性 など

- 継続実施

## 4・5歳児発達障がい相談

### 【事業概要】

保育所、幼稚園、家庭等の日常生活で発達障がいの疑いのある3歳児健康診査受診以降小学校就学までの幼児を対象に、医師・心理相談員・保健師による診察、心理相談、個別指導を実施する。

### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

#### 【4・5歳児発達障がい相談事業実績】

令和3年度は、令和3年12月末現在

	実施回数	延相談数	相談契機						結果内訳				専門機関紹介 内訳	
			養育者からの相談	通所施設からの勧奨	3歳児健診のフォロー	発達相談のフォロー	保健師による相談	その他	助言	専門機関紹介	経過観察	その他	医療機関	こども相談センター
R2年度	173	275	118	87	28	23	9	10	23	192	50	10	180 (65.5%)	12 (4.4%)
R3年度	146	253	106	65	41	23	4	14	12	199	35	7	183 (72.3%)	16 (6.3%)

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- 令和2年度における相談者(延)275人中、専門機関紹介(医療機関)となった者は180人(65.5%)であった。また専門機関紹介(医療機関)となった者のうち発達障がいと診断された者の割合は、平成30年度では87.2%、令和元年度では85.3%となっており、4・5歳児発達障がい相談の精度は高い。
- 3歳児健康診査受診前であっても必要に応じて4・5歳児発達障がい相談の利用を可能としている。発達障がいと診断された年齢については、4歳未満で診断された者が、平成30年度では27.1%、令和元年度では29.4%となっており早期発見につながっている。

### 令和4年度予定・方向性 など

- 継続実施

# 1. 早期発見から早期支援へ

## ③教育・保育の充実(幼稚園・保育所・認定こども園等)

幼稚園・保育所・認定こども園等において、発達障がいのある児童が早期にその特性に応じた適切な発達支援が受けられるよう、幼稚園教諭・保育士等の研修、幼稚園・保育所・認定こども園等の支援、支援手法の普及を実施する。

### 幼稚園教諭・保育士等に対する研修の実施

#### 【事業概要】

幼稚園・保育所・認定こども園等の幼稚園教諭・保育士等が、発達障がい等の特性や支援について理解し、発達障がいの気づきや教育・保育場面における支援が早期に実施されるよう研修を実施する。

#### 【市立幼稚園教諭】

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

〈令和2年度実施〉

- ・特別支援教育コーディネーターを対象とした研修…年5回実施  
（内容）発達障がいについての理解
- ・幼稚園対象の研修…年1回実施（2回予定のうち1回は感染症拡大予防の観点から中止）  
（内容）就学に向けた支援、行動面に課題のある子どもへの支援等
- ・発達障がい基礎講座の実施…2園  
（内容）合理的配慮と発達障がいの基礎的理解と支援  
行動面に課題のある幼児・児童・生徒の理解と支援  
ソーシャルスキル・ライフスキルに関する基礎的理解

〈令和3年度実施（12月末現在）〉

- ・特別支援教育コーディネーターを対象とした研修…年7回実施  
（内容）発達障がいについての理解
- ・幼稚園対象の研修…年2回実施  
（内容）行動面に課題のある子どもへの支援等の実践報告
- ・発達障がい基礎講座の実施…4園  
（内容）行動面に課題のある幼児・児童・生徒の理解と支援

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

##### 【効果】

- ・取組に対する意識は向上している

##### 【課題】

- ・ニーズの多様化や、今後の感染症対策等の状況もふまえ、より実態に応じた研修のあり方の検討・工夫が必要

##### 【令和3年度からの変更点】

- ・オンデマンド動画による事前学習の併用等、状況に応じた研修を実施
- ・各園の研修ニーズを事前に把握し、自園の課題解決の取組を支援する協議型研修を実施

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・幼稚園教諭対象研修の2回実施
- ・特別支援教育コーディネーターを対象とした研修、合理的配慮研修等への幼稚園教諭の参加
- ・発達障がいを含む障がいに対する理解の推進に向け、引き続き、全校園のを対象とした研修を開催し、教員間による実践事例の共有を図り、早期の気づきや指導・支援につなげる。

## 2. 学齢期の支援の充実

### ①特別支援教育の充実

学校において、発達障がいのある児童生徒が早期にその特性に応じた適切な支援を受けることができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた基礎的環境整備を行い、特別支援教育の充実を図ることにより、地域で共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を進める。

また、医療・福祉など関係機関との連携に努め、学校園の支援、児童生徒への支援、教員の研修を進める。

#### 発達障がい研修支援事業

##### 【事業概要】

インクルーシブ教育推進室に発達障がい研修支援員を配置し、発達障がいに関する研修を実施する。

- ・基礎講座：希望する学校園を対象に、発達障がいに関する基礎・基本的な内容について「出前研修」を実施し、発達障がいの理解を深めるとともに適切に指導・支援できる人材の育成を図る。
- ・専門講座：発達障がいに関する学習面・行動面の指導・支援、就労・キャリア教育等の専門的な知識を学び、地域の特別支援教育を推進していく中心的役割を担う人材の育成を図る。

##### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

〈令和2年度実施〉

- ・発達障がい基礎講座の実施…年63回実施  
(内容)「合理的配慮と発達障がいの基礎的理解と支援」  
「行動面に課題のある幼児・児童・生徒の理解と支援」  
「ソーシャルスキル・ライフスキルに関する基礎的理解」  
「通常学級における学習の支援～新学習指導要領解説より～」
- ・発達障がい専門講座の実施…特別支援教育コーディネーター研修「基礎的な発達障がいの理解と障がいに即した支援方法」「発達障がいの特性に応じた指導と実践的取組について」「ユニバーサルデザインの授業をふまえた学習指導」

〈令和3年度実施(12月末現在)〉

- ・発達障がい基礎講座の実施…年89回実施（予定含む）  
(内容)「学習面の指導や支援」  
「行動面の指導や支援」  
「社会面の指導や支援」  
「心理面の指導や支援」
- ・発達障がい専門講座…「発達障がいのある子どもに対する支援①②」「通常学級における支援①②」

##### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

###### 【効果】

- ・発達障がい基礎講座を新たに希望する学校園があり、各校での取組に対する意識は向上している

###### 【課題】

- ・ニーズの多様化や、今後の感染症対策等の状況もふまえ、より実態に応じた研修のあり方の検討・工夫が必要

###### 【令和3年度からの変更点】

- ・オンデマンド動画による事前学習の併用等、状況に応じた研修を実施
- ・各校園の研修ニーズを事前に把握し、自校園の課題解決の取組を支援する協議型研修を実施

##### 令和4年度予定・方向性 など

- ・より実態に応じた研修のあり方を検討、工夫していく。

## 啓発資料の配付

### 【事業概要】

インクルーシブ教育推進室にライブラリーを開設し、書籍1034冊、「通常学級で取り組むソーシャルスキルの指導」を含むDVD201本を貸出し、各校園での校内研修会や日常の指導等に活用できるようにする。

### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

- ・インクルーシブ教育推進室を開設・整備し、特別支援教育に関する図書やDVDの閲覧等のライブラリー充実を図り、各校園へ活用を促す情報を発信
- ・令和2年度の利用数 のべ書籍447冊、DVD57本
- ・令和3年度の利用数 のべ書籍214冊、DVD32本(令和3年度12月末現在)

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

#### 【効果】

- ・巡回指導や研修時などにもニーズに応じた案内をすることでライブラリーの活用につながっている。

#### 【課題】

- ・新刊図書やDVDに関する情報を収集し、購入するとともに、引き続き周知に努め、各校園での活用を働きかけていく

#### 【令和3年度からの変更点】

- ・引き続き、新刊図書やDVDに関する情報を収集し、購入するとともに、より活用が進むような周知を工夫していく。

### 令和4年度予定・方向性 など

・引き続き、各校園のニーズを把握し、必要な新刊図書やDVDを購入する。周知に努め、各校園での活用を一層進める。

# 1. 早期発見から早期支援へ

## ③教育・保育の充実(幼稚園・保育所・認定こども園等)

幼稚園・保育所・認定こども園等において、発達障がいのある児童が早期にその特性に応じた適切な発達支援を受けることができるよう、幼稚園教諭・保育士等の研修、幼稚園・保育所・認定こども園等の支援、支援手法の普及を実施する。

### 幼稚園教諭・保育士等に対する研修の実施

#### 【事業概要】

幼稚園・保育所・認定こども園等の幼稚園教諭・保育士等が、発達障がい等の特性や支援について理解し、発達障がいの気づきや教育・保育場面における支援が早期に実施されるよう研修を実施する。

#### 【私立幼稚園教諭】

#### 【令和2年度 取組状況】

・私立幼稚園等の教員等を対象に発達障がいに関する研修を計12回実施。

研修内容	時期	参加者
特別支援教育の理解(子どもの困難さに気付くために)	7月	38人
特別な支援を実行するための関係機関との連携(1)	7月	32人
発達障がいについての理解	7月	18人
特別な支援を実行するための関係機関との連携(2)	8月	24人
特別支援を要する幼児の保護者との連携(1)	9月	30人
特別支援(ケース検討)	10月	23人
特別支援を要する幼児の保護者との連携(2)	11月	32人
保護者に寄り添うために(1)	11月	31人
保護者に寄り添うために(2)	11月	23人
幼稚園訪問から見えること	11月	20人
子どもの発達	1月	34人
子どもの障がいとその対応	1月	73人

#### 【令和3年度 取組状況 (12月末)】

・私立幼稚園等の教員等を対象に発達障がいに関する研修を計10回実施予定。

研修内容	時期	参加者
子どもの障がいとその対応	6月	100人
保護者に寄り添うために(1)	6月	58人
発達障がいについての理解	6月	50人
特別な支援を実行するための関係機関との連携	9月	46人
特別支援(ケース検討)	9月	16人
保護者に寄り添うために(2)	10月	45人
特別支援を要する幼児の保護者との連携(1)	10月	54人
特別支援教育の理解(子どもの困難さに気付くために)	11月	54人
特別支援を要する幼児の保護者との連携(2)	11月	44人
⑥幼稚園訪問から見えること	11月	39人

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・発達障がいに対する理解を深めることができた。
- ・ケース検討により、個々の状況に合わせた対応を学ぶことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点からオンライン研修を導入している。

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・全ての研修がオンライン(オンデマンド及びライブ配信)で実施された。次年度以降も新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から、効果的な研修方法を検討する。



【保育士】

【令和2年度 取組状況】

＜研修会＞

- ① 本市主催：公私幼保合同研修 幼児教育（特別支援教育）研修会 ＜就学前施設教職員対象＞
- ② 委託研修：障がい児保育研修会（公立保育所・民間保育施設・認定こども園職員対象）

種別	研修内容	時期	参加者数	研修内容を理解できたか？		研修内容は今後の教育・保育に活かすことができるか？	
				理解できた	できなかった	できる	できない
①	愛着障害と発達障害の理解と支援	6月	164人	93%	7%	99%	1%
①	子どもの理解と支援 ～感覚統合の視点から～	7月	98人	99%	1%	97%	3%
①	乳幼児期の感覚・運動機能に着目する～保育に役立つ具体的支援について～	8月	83人	99%	1%	98%	2%
①	発達に課題のある子どもへの遊びを通じた支援	10月	81人	100%	0%	100%	0%
①	発達障がいの可能性がある子どもの保護者の心理理解と支援	11月	102人	97%	3%	97%	3%
①	困っている子どもに気づき、理解と支援を考える	2月	80人	100%	0%	100%	0%
②	気になる子どもの発達と特性の理解	6月	240人	96%	4%	97%	3%
②	豊かなことばを育むために	7月	207人	94%	6%	97%	3%
②	育ち合う関係をつくる ～あそびを通して～	8月	139人	100%	0%	100%	0%
②	気になる子どもの対応と事例検討	10月	156人	94%	6%	96%	4%
②	保護者支援と保護者対応	12月	168人	96%	4%	99%	1%
②	発達障がいを理解する	2月	161人	96%	4%	96%	4%

＜研究会＞

NO	内容	時期
1	助言者による講義「障がい児保育の理念・支援検討のプロセス」 演習：子どもの理解を深める	6月
2	助言者による講義「子ども・保護者への支援」演習：子どもへの支援を考える	7月
3	小グループに分かれて、公開保育・事例検討	7月～10月
4	助言者による講義「障がいのある子どもの支援を考える」事例のその後の検討	12月
5	総括、まとめの資料作り	1月
6	取組報告発表会	2月

講師（助言者）：大阪府立大学 木曾陽子准教授

【令和3年度 取組状況（12月末）】

＜研修会＞

- ① 本市主催：公私幼保合同研修 特別支援教育・障がい児保育研修会 ＜就学前施設教職員対象＞
- ② 委託研修：障がい児保育研修会（公立保育所・民間保育施設・認定こども園職員対象）

種別	研修内容	時期	参加者数	研修内容を理解できたか？		研修内容は今後の教育・保育に活かすことができるか？	
				理解できた	できなかった	できる	できない
①	支援を要する子どもの理解と支援 ～子ども理解から保護者支援まで～（オンライン）	6月	59	100%	0%	100%	0%
①	支援を要する子どもの理解と支援 ～子ども理解から保護者支援まで～（オンライン）	9月	48	96%	4%	100%	0%
①	『子どもと笑顔でかかわるための「感覚」のおはなし』～そうだったのか!!理由がわかると対応が見えてくる！～	11月	61	97%	3%	97%	3%
①	『子どもと笑顔でかかわるための「感覚」のおはなし』～そうだったのか!!理由がわかると対応が見えてくる！～	11月	42	98%	2%	100%	0%
②	障がいのある子どもの発達と子ども理解	7月	87	100%	0%	99%	1%
②	保護者支援	12月	80	90%	10%	94%	6%



## <研究会>

障がい児保育研究会・・・合理的配慮やインクルーシブの理念を正しく理解し、障がいの特性に応じた支援方法を検証する。(9回実施予定)

NO	内容	時期
1	助言者による講義「障がい児保育の理念と支援検討のプロセス」 「子どもの理解を深める」 演習「対象児の情報共有」 (オンライン)	6月
2	助言者による講義「子どもへの支援」 演習「対象児の情報共有」「子どもの支援を考える」(オンライン)	7月
3	助言者による講義「保護者への支援」 演習「支援ツールの紹介」「これまでの実践と今後の検討」(オンライン)	8月
4	演習「グループごとに事例検討」 「グループ合同での発表とまとめ」(オンラインを含む)	9月～12月

講師(助言者):大阪府立大学 木曾陽子准教授

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・当センター主催の研修については、前年度に引き続き、支援が必要な子どもへの理解・保護者支援等に加え、小学校への接続も意識した研修内容としている。
- ・研究会においては、きめ細かな支援の必要性を重視し、少人数グループを組み、子どもの特性に合わせた援助や手だてを学びながら実践研究を行う。
- ・また、研修・研究会とも感染症拡大の状況を踏まえ、Teamsを活用しオンラインで実施している。

### 令和4年度予定・方向性 など

- ・次年度以降も新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から、効果的な研修方法を検討する。

## 発達障がい児等特別支援教育相談事業

### 【事業概要】

市内在住または市内の幼稚園・認定こども園等に通う発達障がい等のある児童とその保護者、関係機関等(幼稚園等)を対象に、日常生活でのさまざまな相談(コミュニケーションや行動面で気になること、困っていること)に対し、専門知識を有する臨床心理士による訪問相談を実施する。

### 【令和2年度 取組状況】

- ・実地による観察、助言・指導を実施
- ・実地による観察、助言等  
相談園数： 延べ315園(実数:74園)  
相談人数： 延べ6,943人

### 【令和3年度 取組状況 (12月末)】

- ・実地による観察、助言・指導を実施
- ・実地による観察、助言等  
相談園数： 延べ245園(実数:69園)  
相談人数： 延べ5,683人

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・幼稚園教諭等が発達障がいに対する理解をより深めることにより、自信をもって児童と関わる事ができた。

### 令和4年度予定・方向性 など

- ・引き続き、当事業を実施し、幼稚園教諭のほか、障がいのある児童・保護者の支援に努める。

## 民間保育園等発達障がい児等相談事業

### 【事業概要】

市内の民間保育園等を対象に児童の発達に関するご不安やご心配に対し、専門知識を有する臨床心理士による電話等による相談支援を行う。

### 【令和2年度 取組状況】

- ・事業休止

### 【令和3年度 取組状況 (12月末)】

- ・8月から事業を再開した。
- ・電話相談:21件 うち訪問相談を行ったもの:13件

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・当事業の安定的な実施のため、体制整備が必要である。

### 令和4年度予定・方向性 など

- ・年度途中での事業再開のため、実施体制づくりに苦慮した。今後は周知活動に努め、件数増に繋げたい。

## 2. 学齢期の支援の充実

### ①特別支援教育の充実

学校において、発達障がいのある児童生徒が早期にその特性に応じた適切な支援を受けることができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた基礎的環境整備を行い、特別支援教育の充実を図ることにより、地域で共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を進める。

また、医療・福祉など関係機関との連携に努め、学校園の支援、児童生徒への支援、教員の研修を進める。

#### 巡回指導体制の強化

##### 【事業概要】

発達障がい等に関する具体的な指導・支援の方法、関係機関や保護者との連携等について、担当指導主事及び巡回アドバイザー（臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士）が学校園を訪問し、指導・助言を実施する。

##### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

- ・アドバイザー4領域による相談体制の強化（平成28年度～）  
（臨床心理士・作業療法士・言語聴覚士・理学療法士）

##### 令和2年度巡回指導実施数

※（ ）内は令和3年12月末現在の実施状況（予定含む）

校園種	幼稚園 52園	小学校 289校	中学校 130校	高等学校 21校
実施数	60 (84)	223 (390)	56 (73)	10 (2)
総計	349 (549)			

- ・学校園のニーズに応じる相談機能の強化  
複数名のアドバイザーによる巡回（平成28年度～）  
複数回の巡回相談（平成28年度～）  
理学療法士による巡回の別枠申込設定により、  
発達障がい児に対する申込数を確保（平成29年度～）

- ・令和2年度は、感染症拡大防止の観点から7月から12月上旬までの実施となった

- ・対象児の観察後、管理職や教職員に対し、あるいは校園内委員会にて指導助言

- ・アドバイザーと指導主事の連携により学校園の支援体制状況を把握し、指導・支援や研修内容に反映

- ・巡回申込時の「相談内容」(※発達障がいを含む全対象児。モデル除く。複数選択有) R2 R3. 12月末現在

指導・支援の方法など全般について	237	433
心理・社会面からの専門的な助言などについて	109	247
生活動作、環境調整に関する専門的な助言などについて	148	319
身体機能や運動、動作、姿勢保持に関する専門的な助言等などについて	99	185
ことばの発達やコミュニケーション等に関する専門的な助言などについて	111	180

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

##### 【効果】

- ・アドバイザー4領域体制により、多様化する障がいに対する相談機能が充実
- ・教員の専門性向上に向け、巡回指導の実施内容の一層の充実

##### 【課題】

- ・対象とする幼児児童生徒数の増加、障がいの多様化、今後の感染症対策等の状況もふまえ、より実態に応じた巡回のあり方の検討・工夫が必要

##### 【令和3年度からの変更点】

- ・感染症拡大防止の観点から6月から開始。1巡回あたりの対象人数等を調整し、状況に応じて一部リモート等による助言も併用

#### 令和4年度予定・方向性 など

- ・学校園のニーズや状況に応じて実施方法を工夫し、柔軟に対応していく。
- ・巡回指導を通して、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・活用の精度を高める。
- ・巡回指導を通して得られた好事例をもとに参考資料を作成し、全市校園への汎化を進める。

## 特別支援教育サポーター(令和元年度までは発達障がいサポート事業)

### 【事業概要】

小中学校に在籍する障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が相互に理解を深め、互いのよさを認め合うための支援など、通常学級および特別支援学級に在籍する個別支援の必要な児童生徒の学習補助や生活補助等を実施するための特別支援教育サポーターを配置する。

### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況 (12月末)】

(令和2年度の実施)

- ・4月より、区事業の移管を受け一元化し「特別支援教育サポーター」として教育委員会事務局事業となった。
- ・12月に各区との情報共有や次年度の運用について確認を行った。

(令和3年度の実施)

- ・小学校286校、中学校125校に、特別支援教育サポーターを配置している。(12月末現在)

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

#### 【効果】

- ・学校のニーズに応じて特別支援教育サポーターを柔軟に活用
- ・障がいのある幼児児童生徒の増加、障がいの多様化への対応

#### 【課題】

- ・特別支援学級に入級する児童生徒数が年々増加しているため、サポーターの需要が高まっている
- ・特別支援教育に関する職員の専門性の向上

### 令和4年度予定・方向性 など

小・中学校における支援体制の整備と充実を図る。

## 2. 学齢期の支援の充実

### ③自立支援の充実

発達障がいのある児童生徒が成人期に自立した生活を送ることができるよう、自立をするために必要なスキルの獲得の支援や就労の支援を実施する。

#### キャリア教育支援

##### 【事業概要】

- ・大阪市キャリア教育支援センター(難波支援学校内)にジョブアドバイザーを3名配置し、発達障がい等のある生徒の就労を支援するため、現場実習先の開拓や巡回指導、相談、講話等を実施する。
- ・大阪市キャリア教育支援センターでは、市立中学校特別支援学級在籍生徒や市立の高等学校自立支援コース、旧大阪市立特別支援学校中学部・高等部に在籍する生徒へのキャリア教育・職業体験実習(おしぼり加工、印刷製本、紙器加工、清掃、ピッキング作業、事務補助作業、洗濯)を実施している。

##### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況(12月末)】

【キャリア教育支援センター外での活動状況】 (単位:回)

	企業開拓	研修	就労支援
令和2年度	48	9	68
R3年(12月末)※	30	8	59

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため原則活動休止(7月下旬まで)

「旧大阪市立特別支援学校PTAへの講話」、「中学校ブロック研修会への講話」、「小学校・中学校校内研修への講話」等

【キャリア教育支援センター内での相談及び講話】

(単位:人)

	保護者	教職員
令和2年度	50	86
R3年(12月末)※	90	106

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためキャリア教育支援センターの実習を休止(7月下旬まで)

##### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

###### 【効果】

〈令和2年度実習参加校アンケート結果(ジョブアドバイザーに関する質問抜粋)〉

対象者:令和2年度実習に参加した学校の付添教員及び保護者

###### ◎保護者

アンケート結果から、お子さんのこれからの進路選択を考えるうえで、「非常に役に立った」・「役に立った」の意見を合わせると99%の結果となっており、保護者への適切な情報提供につながった

###### ◎教職員

アンケート結果から進路指導を行ううえで、「非常に参考になった」・「参考になった」の意見を合わせると98%の結果となっており、進路に役立つ情報提供につながった

若い教員にとって、ジョブアドバイザーの話は「自身の学びが深まるのを身をもって感じた」「今後の進路指導をするうえでとても参考になった」とのコメントが多かった(進路関係)

###### 【課題】

- ・生徒の実態や、就労先のニーズに即した実習種目の研究

###### 【令和3年度からの変更点】

- ・仕事のマナー講座及びキャリアベーシックセミナーをブラッシュアップし講座の更なる充実を図る
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により休止していたキャリア教育支援センター実習および研修等について7月下旬より再開した

##### 令和4年度予定・方向性 など

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、キャリア教育支援センター実習及び研修等について実習人数、実習日数に関して精査し実施
- ・生徒の就労の実態に即した現場実習先の開拓を図る

## 2. 学齢期の支援の充実

### ③自立支援の充実

発達障がいのある児童生徒が成人期に自立した生活を送ることができるよう、自立をするために必要なスキルの獲得の支援や就労の支援を実施する。

#### 児童養護施設等での発達障がい児自立支援事業

##### 【事業概要】

児童養護施設等に在籍する児童を対象に、発達障がい児自立支援専門員（臨床心理士等）が、児童が自立するために必要なソーシャルスキル等を獲得するための専門的支援を実施する。

##### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

##### 具体的支援の内容

- ・対象児童の課題を踏まえ、社会生活を送る上で必要な技術や能力を身につけるトレーニング（ソーシャルスキルトレーニング）を実施。
- ・生活場面における掃除、整理整頓などの自立のためのトレーニングプログラムを設け、様々な経験を通して自信等を育成する。
- ・幼児期に集団の中で自分の感情を言葉で表現し、対人関係や問題を解決する能力と、怒りや衝動をコントロールするためのレッスンを実施。

令和3年度中間                      9施設、約160名を対象に事業実施予定  
( 令和2年度                      11施設、175名                      計2,068回の支援を実施 )

- ・施設間の意見交換、情報共有のため、心理担当職員の部会開催を支援

##### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・児童養護施設等からの実施報告書からは、「部活をやりとげ、就職活動に取り組んでいる。帰宅に向けて現実に直面しているが、投げやりにならずに頑張っている。」「安定して活動に参加できるようになり、生活場面での応用も見られるようになった」等、児童の施設退所に向け事業効果を確認することができる。
- ・一方で、「親族に対する拒否感は強く、変化は見られない」など、継続しての支援が必要な児童も多く確認でき、新規に措置される発達障がい児や、自立・安定した生活を送るために継続した支援が必要な児童のため、今後も引き続きの実施が求められる。

##### 令和4年度予定・方向性 など

引き続き実施する。



## 6. 支援の引継ぎのための取組

発達障がいのある人が、支援者（機関）が代わっても、適切な支援を受け、安心して生活を送ることができるよう、その特性や支援についての情報を引き継ぐ取組みを実施する。

### サポートブック

#### 【事業概要】

発達障がいのある幼児が周囲から適切な理解や支援を受けられるよう、保護者が子どもの特性や日常生活での配慮点を記載し、就学する小学校や支援学校、支援者（機関）等に提示する。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

就学相談は年々減少しているものの、こどもの特性に関するアセスメントを実施し、必要な支援および合理的配慮についての助言を行っている。その中でサポートブックの活用に関する説明を行い、ニーズのある保護者に対して作成支援を行ってきた。

今年度の就学相談は2件しかなく、サポートブックの活用ニーズはなかった。

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

保護者の中には園や療育機関・事業所等で、サポートブックをすでに作成中の場合も多く、教育相談でのサポートブック作成支援は他機関に殆ど繋がっていないケースに限られてきている。さらに、就学前の幼児の相談件数が減少し続けていることから、事業の成果が期待できない現状となってきた。

#### 令和4年度予定・方向性 など

就学前の幼児の相談申込みは減少し続けており、保護者のニーズをどのように掘り起こすか検討していく。

# 1. 早期発見から早期支援へ

## ③教育・保育の充実(幼稚園・保育所・認定こども園等)

幼稚園・保育所・認定こども園等において、発達障がいのある児童が早期にその特性に応じた適切な発達支援を受けることができるよう、幼稚園教諭・保育士等の研修、幼稚園・保育所・認定こども園等の支援、支援手法の普及を実施する。

### 特別支援保育巡回指導講師派遣事業

#### 【事業概要】

巡回指導講師を保育所等に派遣し、発達障がいを含む障がいのある児童への個別の支援や、関係機関への連携等、各施設のニーズに合わせた指導・助言を行う。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

令和2年度(12月末)	令和3年度
公立 60か所	公立 57か所
公民 15か所	公民 20か所
私立 191か所	私立 225か所

・巡回日に、担任や所長、主任と児童の状況について観察・共有し、個々の特性に応じた具体的な支援に関する助言・指導を行っている。

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・障がいのある児童への支援及び特別支援保育についての理解が深まっている。
- ・保育所に入所する障がい児や発達の気になる児童は年々増加しており、多様なケースに対応する講師のノウハウが、より求められている。申込施設数が増加し、講師の担当か所数と巡回回数調整等が課題となっている。

#### 令和4年度予定・方向性 など

・個々の講師の専門性を生かすと共に、講師間での情報共有や研修を実施し、講師全体のスキルアップを図ることで相談支援等の充実を図る。

### 保育所等における発達支援プログラムの活用

#### 【事業概要】

発達障がいのある児童の特性の理解と効果的な支援方法についてまとめた発達支援プログラム冊子「できた！わかった！たのしいよ！」パート1・パート2を保育所等に配付するとともに冊子を活用し、保育士等を対象にした研修を実施する。

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

- ・発達障がいのあるこどもの支援について実践的に学ぶ「特別支援保育実践交流研修事業」において本冊子を活用している。
- ・公立保育所において、特別支援保育コーディネーター養成研究会や主任級保育士を対象にした研修会で本冊子を活用している。
- ・本市ホームページにおいて掲載及び保育士等の研修で活用している。

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・「特別支援保育実践交流研修事業」や保育士研修に冊子を活用することで、発達障がい児支援への理解が深まっている。
- ・パート1は平成24年、パート2は平成27年発行で、継続した研究の取り組みにより、内容の追記及び更新が必要になってきている。

#### 令和4年度予定・方向性 など

・冊子の更新に向け、記載内容の検討を進めていく。

### 3. 成人期の支援の充実

#### ②就労支援の充実

発達障がいのある成人が、自立した生活を送ることができるよう、就労に向けた相談、情報提供や助言、関係機関・事業所とのコーディネート等を通じて就労支援を実施する。

#### 発達障がい者就業支援コーディネーターの配置

##### 【事業概要】

発達障がい者就業支援コーディネーター（2名）を障がい者就業・生活支援センターに配置し、必要な就業支援サービスを提供するとともに、必要な支援機関と結び付け、チームで就業等を支える体制を構築する。

##### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

※令和3年度の詳細は、資料2【別添資料①】発達障がい者就業支援コーディネーター事業報告及び【別添資料②】令和3年度12月末時点就職者一覧参照。

##### ○地域関係機関や企業と連携した相談支援、働き続けるための支援（職場定着・職場復帰）

	新規登録者	就職者	定着支援（職場訪問）
R元年度	52名	34名	151回 23名
R2年度	19名	14名	147回 25名
R3年度	14名	12名	98回 30名

（令和3年12月末実績）

##### ○専修学校等への出前講座などの学生就労準備支援

	出前講座	備考
R元年度	11回開催	府立一般高校、福祉サービス事業所など
R2年度	0回開催	府立一般高校、福祉サービス事業所など
R3年度	3回開催	府立一般高校、福祉サービス事業所など

（令和3年12月末実績）

##### ○発達障がい者の地域就労支援体制に対する後方支援

- ・大阪市内6箇所の地域障がい者就業・生活支援センターにおける発達障がい者の就労支援において発達障がい者就業支援コーディネーターが中心となって連絡会議を月毎に開催し、事案の共有や各支援機関との連携等の後方支援を実施。
- ・セミナー等講演会への講師派遣による発達障がい理解の促進  
職場適応援助者養成研修（実施予定）
- ・障がい受容が困難であるケースや、生活面の支援が必要であるがご本人が納得できないケース等長期的な、あるいは断続的な関りが必要となる困難事例について、調整方法等を地域の支援機関の担当者に向けてアドバイス。

##### ○講座等の開催による情報の収集、発信

- ・制度活用・就職準備・就職マナー講座等の開催状況（資料2【別添資料③】参照）

##### ・障がい者就労支援フェスタの開催

【令和2年度】「もっと知りたい就ポツのしくみ/当事者にとっての在宅就労とは」  
R2. 10. 30 開催 講演内容を録画配信、質疑応答はライブ配信にて対応  
放映会場：北区民センター 13名 早川福祉会館 4名 オンライン視聴 230名

##### 【令和3年度】「しゅうぼつのトリセツ」

- ・第1部 就ポツフェスタIn就職面接会（講演「企業に就職し、活躍するために」）  
R3. 11. 18 OMM2階 展示ホール
- ・第2部 「障害者就業・生活支援センターの利用について」「地域での多職種連携等について」  
R3. 12. 1からR3. 12. 14の期間YouTube配信

#### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

- ・地域障がい者就業・生活支援センターのバックアップなどにより、就労支援事業としては、発達障がいの特性に応じたきめの細かい支援が年々実施できつつある。
- ・本年度も昨年に引き続き、新型コロナの影響により、生活リズムが崩れてしまう方や、雇用企業担当者からの継続雇用のご相談（定着支援）が多く寄せられた。
- ・発達障がいの方への支援をどう展開するかは課題に対しては、専門的ではあるが待機度の高いコーディネーター事業と、比較的最寄りの地域で相談窓口として機能している地域センターとの協力体制を充実させることにより、就職後のフォローアップなどを含む支援対応がより円滑化されると見込まれる。

### 令和4年度予定・方向性 など

・令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス流行の影響による就業継続や雇用企業からのご相談（定着支援）などが増えてくる可能性が高い。  
・発達障がいにより雇用継続面で起きやすい課題（事業替えによる配置転換、部署異動、担当者の交代や、勤務時間等の変更などの新しい就労場面が突然発生し、当事者の認識が追い付かず、誤解や認識不足のため今までできていた仕事の遂行が難しくなったり、ストレスを抱えるようになるなど）に対しては、例えばコーディネーターによる各地域センターへの解説やノウハウの伝達などが有効とも思われ、地域事業所との合同でそれらの学習会などを開催したりする取り組みも重要と考えられる。

### その他の取組み

事業名称： 発達障がい者就労支援の充実

#### 【令和2年度 取組状況】【令和3年度 取組状況（12月末）】

・発達障がい者等に対し、十分な就労支援等を行うため、地域障がい者就業・生活支援センターの就労支援員の体制を強化する。

#### ○就職者数(市内6箇所の障がい者就業・生活支援センターの就職者数(一般事業所+就労継続A型))

令和元年度 68人

令和2年度 54人

令和3年度 50人（令和3年12月末実績）

#### ○定着率(一般事業所に就職した者で、就職年度から6カ月後、1年後の在職者により定着率を算出)

	就職時	6か月後	1年後
H30年度就職者	162名(100%)	129名(79.6%)	119名(73.5%)
R1年度就職者	132名(100%)	118名(89.4%)	106名(80.3%)

### 効果・課題・令和3年度からの変更点 など

・発達障がい者への支援は、障がいの特性から長期間に及ぶ支援が必要となるため、一人ひとりの障がいの特性に合ったきめ細かな支援が必要となる。  
・特に現時点での診断が無く、障がい手帳を未所持で発達障がいの特性が見受けられるケースは、大学や専門学校の在校生に多く、就労先への障がいの開示／非開示によるそれぞれのメリット、デメリットの説明や一般の就労支援機関や職業訓練機関と連携するなど、発達障がい者への支援手法を用いて支援を実施している。  
・最近では、既に企業に雇用されている方について、企業担当者からのご相談も多く、今後の雇用継続について、コロナ現況下でのアドバイス等を求められることもあるため、発達障がい者就労支援コーディネーター及び地域センターの就労支援員が連携し、事案の共有等、更なる支援技術向上と経験の蓄積を図り、充実した支援を展開する。

### 令和4年度予定・方向性 など

・令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス流行の影響による就業継続や雇用企業からのご相談（定着支援）などが増えてくる可能性が高い。  
・発達障がいにより雇用継続面で起きやすい課題（事業替えによる配置転換、部署異動、担当者の交代や、勤務時間等の変更などの新しい就労場面が突然発生し、当事者の認識が追い付かず、誤解や認識不足のため今までできていた仕事の遂行が難しくなったり、ストレスを抱えるようになるなど）に対しては、例えばコーディネーターによる各地域センターへの解説やノウハウの伝達などが有効とも思われ、地域事業所との合同でそれらの学習会などを開催したりする取り組みも重要と考えられる。